

『ソモト・エモーショナル・リコール&リリース』

関連資料（8）

引用・出典

◆もうひとりのあなた

ジョン・E. アプレジャー（著） 83～96頁

なく、身体の組織や臓器自身から病歴や手術歴などの情報を得ているのだと思う。ちなみに彼は、彼のテクニックに興味を持つ学生に治療法を教え、かなりの成功を収めている。また彼は、我々アプレジャーアー協会に招かれてアメリカでセミナーを行いにこの数年続けて訪れている。そして私は彼の好意に答えて、フランスに度々頭蓋仙骨治療法と体性感情解放法を行っている。今でも我々は、共にお互いの新しい情報や知識を交換し合いながら交流を深めている。

XVI. 体性感情解放法

体性感情解放とは、頭蓋仙骨治療やエネルギー・シストを解放して、より治療を進めて行く際に多く現れる現象を指す。体性感情解放法は、前述したエネルギー・シストや組織メモリーのように、セラピストと患者との身体の位置やエネルギーの移動により引き起こる。この違いは、体性感情解放法は全体論的に近い考え方であり、治療過程は全てセラピストにより方向付けられる。

エネルギー・シストや組織メモリーを解放するには、セラピストは患者が訴える症状を常に考慮しながら行う。そして頭蓋仙骨システム検査法などのテクニックを用いて、身体全体のアーチング（源）により、エネルギー・シストの場所や頭蓋仙骨リズムの先導により、患者に潜むエネルギーが解放される体勢を探し出す。この方法で、かなり治療に必要な正確な目標地點が明確になる。

ここで興味を抱く読者の方々に、簡単なアーチング（源）の説明と、患者の身体に蓄積されたエネルギーにどのように対処して行くかを説明したい。まず我々は患者のエネルギーを利用して、エネルギー・シストの場所を調べる。探し出す方法がアーチングと呼ばれる。これは池に溜まった水の表面に小石が投げ込まれた時の現象に類似している。投げ込まれた小石で生じる波は、円を描きながら大きく広がる。静かな状態の池に小石が投げ込まれると波が発生する。つまり我々は、患者に潜むエネルギー・シストは静かな正常な状態でいる患者のエネルギーの流れを妨げ、小石と同じようにエネルギーの波を送り出していると考えている。頭蓋仙骨セラピストは、身体の正常な流れを妨害するエネルギー・シストを作り出す波を知覚して見つ

け出す能力を身に付けています。そして、波状に発生される円形エネルギーの中央部分を探し出せば、エネルギー・システムに到達できるのである。

しかし、体性感情解放法の考え方には、エネルギー・システムとは少々異なる。体性感情解放法の方法は、単に患者の身体に両手を添えるのである。そして、患者の身体が自然に動き出すように時間を与えながら導く。その間に我々は、患者にエネルギーを注ぎ込む。この時点で、読者が私を変人扱いする前に患者に“エネルギーを注ぎ込む”的説明をしたい。実際、我々は患者にエネルギーを取り、患者がそのエネルギーを受け入れた時の電圧の変化や電圧の抗体変化を測定してエネルギーの存在を確認している。事実、私達の手元には、次から次に新しいエネルギー移動現象についての測定報告が集められている。十分な情報を収集できれば、エネルギー移動現象を科学協会に発表するつもりである。変人と思われるかも知れない内を認め、たとえ資料が少なくとも、協会の上台が頑固なものにならない内に新しい概念を常に受け入れて行くべきだと思う。

主題を体性感情解放法に戻そう。私達はセラピストが患者をリラックスさせて信頼感を与えると、患者のある無意識のレベルが促進する事実を認めた。前述した測定された物理的エネルギーを導くと、患者は自分自身が最も解放感を得られる体勢を数分で選び取る。セラピストは何も特別な指示を与える必要はない。この治療は全て患者自身が進めて行くからである。私(セラピスト)は単に、彼らが進めている賢明な行為を補助しながら教え、できる限り患者自身がその過程を進むように手を貸すだけである。

体性感情解放が始まるとき、頭蓋骨システムはエネルギー・システムが解放する時と同じように中止して停止する。しかし、体性感情解放が行われる時は、より包括的である。患者が選んだ体勢から、患者の感情エネルギーが解放される。解放エネルギーは、身体組織から溢れ出る感じである。多くの場合は、神経システムを通して解放するが、または声帯器官などから解放することもある。解放時に患者は泣いたり、震え、発汗、笑い、痛み等と色々な状態が見られる。全て患者に潜む無意識のエネルギーが、その時

の状態に適応して異なる形で現れる。私には、患者に潜む知的なエネルギーが、それぞれのセラピストが持つ才能に合わせて表現法を変えているようになる。つまり、全てセラピストの才能も、献身的な気持ちは同様に患者が必要とする方向に仕立てられる。私は体性感情解放の治療を施す度に、患者から私の持つ力や熱意、または誠意を試されている感じを受ける。そして今までの数千に及ぶセッションで、常に同じ体験をしている。

体性感情が解放されて効果が見られた時は、患者の生活は著しく変化する。それは、まるで彼らがどのように生き、生活を向上して行くのかを知る機会が与えられたようである。解放時に彼らは過去に起きた経験が蘇り、それは事故や外傷、または長年の間、自分の表面的では気づかず過ごしていた経験であったりする。経験が蘇り抑制を破つて身体の表面に現れると、問題は和らいで消滅していく。しかし、抑制が残ると、知らない内に患者に問題が生じたり、理由もわからず現れたりする。

いかに体性感情解放法が、あなたに影響を及ぼすかを説明するために、10年ほど前に起きた例証を紹介したい。ケースは珍しく、患者は精神科医である。彼は200人を越す健康新聞に携わる仕事を持つ聴講者の中から、志願して壇上に出てきた。この時、私は体性感情解放法テクニックを実演するための患者役になる志願者を探していたのである。私は、彼を広い会場の壇上に備えてある治療台上に寝かせ、私自身は、診療台の横に立つて実演を始めた。私は片手を彼の片側の股関節部に添え、自分の膝を彼の前に曲げて診療台の上に乗せた。これは私達が治療を開始する方法の1つである。すると彼はすぐに右側によろめき始め、私は身体で彼を支えながら床の上に移動して寝かせた。すると彼は、裂けるばかりの大きな声で叫び始めたのである。彼のエネルギーが解放できるように、私は単に彼の左手と手首を支えていた。彼は約25分間、文章では書き表せない言葉を叫び続けた。彼はのけぞり、またバタバタと動き回り、まるで魚が水槽から飛び出したように動き続けた。しかし、彼は私がつかんでいる左手と手首を離さとはしない。解放過程が進むにつれて、彼の声は高まり、また叫び声や毒舌が次第

に子供の声に移り変わった。最終的に彼は床の上で横たわりながら、子供のように泣き出したのである。彼は膝を胸の前に引き寄せている。私は左手と右手を続けてつかんでいるだけである。彼はその新生児の体勢で5分ほど泣いた後、身体が突然リラックスして緩んだ。彼は立ち上がり私の脇に立ち、彼の周りにいるこの実演を見ていた友人を恥ずかしそうに見回した。

私は彼に治療台に再び戻るよう言い、頭蓋仙骨治療によりリラックスさせて体調を整えた上で治療を終わりたいと告げると、彼は私の要望を受け入れて診療台に横たわった。彼の頭を触っている間に、私はもし彼に何が起きたのか説明できれば教えてほしいと尋ねた。すると彼は我々(200人の聴講人と私)の前で、過去10年間に渡り、患者として心理治療を受けてきた体験談を語り始めた。また彼は精神科医として13年間の臨床経験を持つ人である。彼によれば、彼自身の心理治療は過去3年間行き詰まつた状態であったらしい。行き詰まる場所は、常に父親に対する怒りを感じた時点である。それ以前の彼は、理由のわからぬ同じ怒りを度々感じていたと言う。そして、彼は体性感情解放の実演中に、父親がワシントンDCで連邦政府にかかる仕事をしていたころを思い出したそうである。彼は乳母車に乗せられていた。彼が約1才のころである。気持ちの良い日曜日に、父親は彼に話しかけながら散歩をしている。太陽の日が暖かく彼を迎える。彼も満足しながら幸せな気分に浸っていた。全てが快適である。彼は父親と共にし、父親の全てを独占している。

その幸福感に包まれた散歩の途中で父親が突然立ち止まり、面識のある誰かと話しかけたのである。その人との会話は長々と引き続いた。その当時1才であり、後に精神科医になる彼から、父親の注意は突如引き離されてしまったのである。彼は父親に無視されていると感じ始めた。散歩は、彼と父親だけの時間のはずであった。父親と話している何者かは、その大切な時間を奪つたのである。その何者かが、簡単に父親の注意を奪い取つた事実は彼を非常に傷つけた。彼は泣き始めた。しかし、父親は話しに熱中して、注意は戻らない。赤ん坊である彼は、泣いてもバタバタ動いても、父

親の注意が戻らないために挫折し始めた。そして挫折感が怒りに変わり、赤ん坊は泣き叫び始めた。すると父親が乳母車に手を伸ばして赤ん坊である彼の左手首をつかみ、「黙らないと、お前の腕を折つてしまふぞ」と怒鳴った。赤ん坊を扱うにはあまり良い方法ではないが、確かに父親はそう言ったのである。

実演に志願した彼は、今となつて父親がいかに大切な会話をしていたのか理解できた。まだどれほど、父親が最後まで会話を終わらせなかつたのか最終的に父親は恐縮が途切れ、息子の左手首をつかみ、もし黙らなければ腕を折ると脅すような言葉となつて表現されたのである。自分の子供が余りにも聞き分けなく、静かにならないのであれば、父親が知る限りの手段として脅かす方法しかなかつたのだろう。彼としては、父親が暴力や感情的に強く怒られた経験が無かつた。今になつて彼は、父親が恐縮を切らして怒る理由を受け入れることができた。事実、父親自身も湧き出る興奮を抑えられるほど完璧ではなかつたのである。彼も単なる1人の人間なのである。精神科医である彼は今、父親が取つた態度を理解して受け入れることができた。

記憶に残されていたこの事件が、彼の意識の中で抑制され続けていたのである。抑制は彼の左手首に残された。私がその彼の手首を意図的につかむと抑えられた怒い出が解放され、そして彼自身が父親との事件以来抑えていた怒りを蘇らせる決心をしたのである。私が考えるに、彼が過去数年、心理治療で現れていた怒りの感情は、それまでに蓄積された慢性的感情と考慮していたのだと思う。そして心理治療でも、怒りは父親に関連すると解釈していた。しかし、その怒りは数年間に渡る治療でも完全に確認できなかつたのである。しかし、残されていた問題が200人の聴講者の前で、40分から50分に渡る体性感情解放法の実演で見つけ出され、また解決したのである。

セミナーを終えてから約3カ月過ぎた後、彼から今までの父親に対する感情が消え、全て良い方向に進んないと感謝を込めた手紙が私に送られて来た。

もう1つ別の例証として、1979年にパリで行われた体性感情解放法のケースを紹介したい。講演はとても友好的とは思えない、また疑い深いフランス人の理学療法師で埋められた講堂で行われた。会場には300人を超える聴講者が参加していた。その中で、私は体性感情解放法がどのようなものであるか説明した後、会場から体性感情解放法を実演するよううに要求された。私は受けたくない自分の気持ちに逆らい、最終的に要求を受け入れた。

直ちに、中年の筋肉質なフランス人のマッショマンが会場の中から行進しながら前に出てきた。明らかに、私は彼に実演する羽目になりそうである。友人でもある私の通訳が、彼が私に疑いを抱き、会場で私に対して偽りであると怒鳴り続けている騒々しいグループのリーダーであると注意してくれた。どうやら私は自分では己の首を絞めてしまったようである。まるで雲をつかむような事態に、私は落胆し始めていた。一方、私の前の聴講者は、早く実演をするように不平を言い始めている。そんな悪いムードが漂う中で、私は体性感情解放法など偽りであると証明したくて身構えている、大きくて強靭なマッショマンに実演しなければならない。私には治療台もなく、実演する意欲も全くない。この朝に行われた講義は、私自身に大きな教訓になった。マッショマンは会場の前に現れた。私は自分が知るフランス語知識の半分に値するbonjour（ボンジュール）を彼と交わした。彼は挑戦的な目で、夢にさえ役に立たない体性感情解放法などと、確信した目付きで私をにらみ付けた。私は彼を机の上に寝かせ、両手を骨盤の前方に置いた。解剖学的には、私は彼の腸骨棘と上前腸骨棘を両手で支えた状態である。片膝を床につけながら、視線を彼の骨盤の位置に下げ、実演が成功するようく小さな声で祈りを捧げた。静かに体性感情解放法の過程が無事行われると確信しながら祈るしかない。そして私は、彼にエネルギーを送り始めた。どんな患者であれ、エネルギーは誰に対しても同じ力

をりえるはずである。

どれほど、時間が過ぎたかわからないが、この状況にいた私には、1分がまるで1時間ほどに長く感じられた。しかし多分30秒以内であると思うが、反抗的なフランス人は身体を私の右肩にもたれ掛け始め、私も彼に合わせて動き出した。直観的に彼の身体が要求する方向に従いながら動かなければならぬ。私は優しく彼を見守る会場の床に移動させた。すると彼は胎児の体勢を取り出した。両膝を胸につけて、親指を口に入れた。そして、彼は小さな子が悲しみを誘うかのように、寂しく心苦しくすり泣き始めたのである。私は彼が要求するままにさせた。彼は、仲間や他の聴講者が見ているのに気付いているが、体性感情解放法が始まってしまえば、彼にすれば関係の無いことである。彼のマッショマンである虚榮も、より重要である現在の自分のために消え失せている。約15分した後、彼は床で悲しそうにすり泣くのを止めた。彼はリラックスしている。そして彼は私を認め、通訳者にフランス語で話しかけ始めた。要点をまとめれば、彼は赤ん坊の時に母親に見捨てられた感情を抱いたのである。彼には1人の兄がおり、自転車事故に遭った。母親は急に彼に向けていた愛情を止めて、傷付いた兄の看病に務めた。それが理解できただ今、彼は全てを語せたのである。彼自身が受けていた感情を取り除くことができたのである。実演以来、彼がどこにいるかは知らないが、きっと体性感情解放の後はマッショマンではなくた気がする。多分、彼が筋肉質過剰のマッショマンになる理由は、赤ん坊の時に見捨てられて愛情が与えられない子であると過補償になつたためであろう。確かに、突然それまで受けっていた愛情と注意が失せれば、何もわからぬ新生児に理解することは難しい。赤ん坊はそれ以上自分が傷つかないために、自分自身を守る必要があつた。我々は、肉体的に強制になることで己を防衛したつもりになる。

この実演以来、私は体性感情解放過程をより一層強く確信するようになつた。私はきっと誰かに見守られているに違いない。この特別な実演以来、フランス人は最も友好的で講演しやすい場所に変わつた。またフランス人のマッショマンの実演は、フランス心理治療協会に強い影響を与える結果